

沼津市青少年教育センター

たより

平成27年1月号 No. 510

〒410-0881 沼津市八幡町97番地 ☎(055)951-3440 FAX(055)952-3300

孫の学校開放日



青少年健全育成地域相談員 総括 市川 勝也

11月中旬の土曜日、静岡の小学1年になる孫の学校公開日に行ってきた。4人姉妹の一番下で、姉たち3人に鍛えられている反面、末っ子の甘さが見られる1年生。この4月、背中に収まりきれないほどの大きなランドセル、幼い話を聞くのが楽しかった。どのような未来を夢見ているのかは分からないが、いまを楽しみ、前向きに生きようとする孫の心意気に元気をもらったのも事実だ。これから長く続く学校生活は、楽しいことばかりではない。苦しいことも多いし、いわれなきいじめ、いたずらに遭うこともあるかもしれない。ちょっとしたいたずらのつもりでしたことがいじめに発展して、友人や友人の家族を傷つけることもあるかもしれない。そのような難題に直面したとき、それらを切り開いていける力や優しさ、心の強さも、これからの学校生活で養ってもらいたいと思った。そんなエールを送りながら半年以上経った孫の学校を訪ね、にこにこ手を振りながら返してきた孫の瞳を見て、まずは安堵したのが本心だ。

当日参観した授業は、「家の人と一緒にクリスマスリースを作ろう」という図工科の授業で、育ててきたアサガオの枯れたツルを丸く束ね、思い思いの飾りで自分のリースを作るというものである。しばらく経つと、教室のあちこちで、作品が進まない子に、心配のあまり口出しをする親や祖父母が出始め、中には、子どもは手を出さず大人がほとんど作っている光景も現れだした。小ぎれいだけれど自分で作った実感のない作品ができあがりつつある。飾りも、百円ショップで購入したと思われるキラキラした小物で飾っているのが多く、市販されているリースと同じようなものができている。孫は？と見ると、「自分でやる」と母親の手伝いを拒み、フェルト生地でちょっと歪な☆を一生懸命に切り取っている。作品に仕上げることも目的ではあるが、斜め前の子は、家の人と千代紙で「折り紙遊び」をつくり出している。そんな楽しい子どももいる。

隣の子も向かいの子も「見て見て」と目を輝かして作り出した作品でありたいものだ。子どもたちが「いいこと考えた！」と進んで言え、行動できる環境をどのようにつくっていったら良いのか考えさせられた。

『自立』に向けたかかわり～相談指導学級～

沼津市青少年教育センター 指導主事 横山 尚博

青少年教育センターには、『相談指導学級』という名称の適応指導教室があります。何らかの原因で心の中で折り合いがつかず、学校への登校が困難になっている子ども達が通級しています。面接相談を重ね、学校と連携を図り、沼津市教育委員会が許可した子ども達が通っています。

子ども達は、自分で計画を立て、自分で決めたことをやり遂げる活動を進めており、2名の経験豊かな指導員が個に応じた支援にあたっております。午前中の2時間は、基本的に持参した学習道具を使い、学習を進めています。学校で使っているドリルをやりながら、わからないところを教えてもらい子供もいれば、学年をさかのぼり繰り返し復習をしている子供もいます。午後は、主に創作活動や音楽、体育活動等を行っています。女子の間では、フェルトを使ったマスコットづくりが流行っています。店舗に並んでも引けを取らない程の出来栄えになってきました。中学生男子の一人は、クラシックギターを根気強く練習しています。心安らく音色で通級生やセンター職員を癒してくれます。また、年間を通して体験活動を実施しています。小集団での取り組みを通して、いろいろな人とのかかわりを深めたり、情操を養ったりしています。今年度も、活動のひとつに農耕体験を取り入れました。4月から11月までの間継続的に、周囲の人に助けをいただきながら、さつまいもを育てる作業を行いました。子ども達のこまめな草取りや芋を狙う鹿や猪対策の効果があり、かなりの収穫量になりました。



先日、中学生の時に相談指導学級に通級していた高校生が、定期テストが終わった後に来てくれました。教室の真ん中にある大きなテーブルにみんなが集まり、雑談の何気ない話の延長線上で、貴重な話をしてくれました。『高校入学後は、学習に力を入れ続け、好成績を維持していること。』『高2になり、大学進学が具体的な目標となり、将来への展望が開けてきたこと。』『部活動を継続しており、成果を実感し、それをまた励みにして頑張りが効いていること。』『こんな自分をあたたかく見守り続け、育ててくれた家族に感謝していること。』等々…。決して驕ることのない、柔らかな姿勢で伝えてくれました。少し時間をおいた帰りの会でも、『中学生の時に不登校になり、相談指導学級で生活する中で自信を高め、いざ学校に登校しようとした時には、不安だったこと。登校するにあたり心配していたことが、どのようにしたら薄れていったか。』等を語ってくれました。通級生は、水を打ったように静まり返り、聞き入っていました。特に、中3の子ども達の真剣なまなざし、この話を聞いた後にぐっと引きしまった様子が印象的でした。

相談指導学級では、自分で決めたことを実行し自信を深め、やがては自立ができればと思い支援にあたっています。通級生同士は互いに気をつかい、何か事情があって通っていることを察して、詮索はしないし、何となく居心地の良いあたたかな雰囲気をつくり生活しています。

平成27年が始まったばかりですが、あと少しで節目の春を迎えます。約2ヶ月後の旅立ちの日を思い浮かべながら、この時期を大切にしたいと思います。

面接相談



◎非行・不登校・発達・子育て・進路・対人関係など
青少年に関する面接相談。

◎相談および申し込み受け付け時間：
午前9時～午後5時 月～金曜日（祝祭日を除く）

◎相談申し込み：TEL 951-3440

平成26年10月・11月・12月の状況

10・11・12月には新たに申込みがあった16件（10月8件、11月3件、12月5件）を含め、56件（延べ相談回数379回）の相談に応じました。

1. 相談内容別新規相談件数

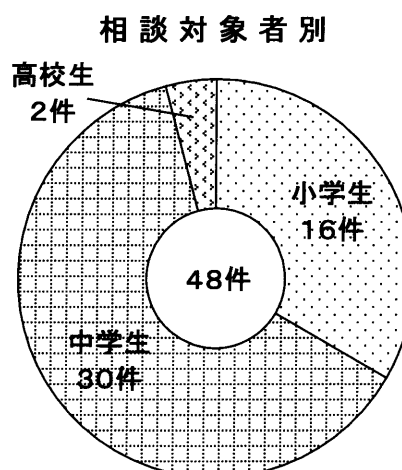
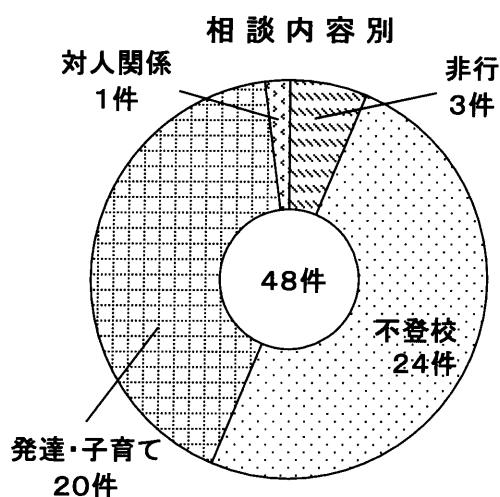
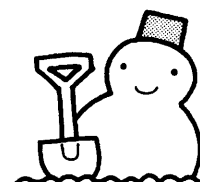
	非行	不登校	発達・子育て	進路・適性	対人関係	その他	合計
10月	0	1	6	0	1	0	8
11月	0	1	2	0	0	0	3
12月	0	2	3	0	0	0	5

2. 相談対象者別

	幼児	小学生	中学生	高校生	少年	一般成人	合計
10月	0	5	3	0	0	0	8
11月	0	1	2	0	0	0	3
12月	0	2	2	1	0	0	5

3. 今年度の新規相談受付状況

受付件数 48件（前年同期 49件）



4. 10・11・12月に応じた相談件数（新規相談＋継続相談）

対象	性別	非行	不登校	発達・子育て	進路・適性	対人関係	その他	計
幼児	男							0
	女							0
小学生	男		3	5		1		9
	女		2	4				6
中学生	男	2	11	5				18
	女		16	2				18
高校生	男		1	1				2
	女							0
少年	男					2		2
	女							0
一般成人	男					1		1
	女							0
計	男	2	15	11	0	4	0	32
	女	0	18	6	0	0	0	24
男女合計		2	33	17	0	4	0	56

5. 10・11・12月の相談回数（56件の相談に要した延べ回数）

月	性別	面接	訪問	その他	合計
10・11 ・12月	男	181	19	23	223
	女	123	14	19	156
	計	304	33	42	379

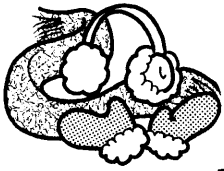
相談指導学級  学級担当 

10月から12月にかけては体験活動が充実した期間でした。継続的な取り組みで成果を上げた時の感動を味わう農耕体験（サツマイモ・ピーマン・トウガラシの収穫）、自分の体力を知るための新体力テスト、困難を乗り越えることを通して自己肯定感を高めるためのオータムキャンプ、歴史学習に興味を持つための文化財見学及び発掘体験、防災意識及び自己防災力を高めるための防災センター見学・体験、集団活動の達成感を味わうための調理実習など、多岐にわたる体験活動でした。体験活動によっては個々の役割があります。遂行することで集団の一員としての自覚だけでなく、集団への所属感も感じたことと思います。当学級の最終目標は学校への復帰、社会的自立にあります。前述のような体験活動を年間を通して定期的に行っていますが、この様々な体験活動が精神面のケアと学級目標達成への大きな役割を担っていることは確かです。

また、毎日通級する目的の一つに、学習を少しでも取り戻すこと、学校へ戻った時に学習習慣が身についているようにすることがあります。午前中は、落ち着いて静かに学習に取り組んでいます。この前向きな姿勢も大切にしたいと思います。

現在、学校に完全復帰した生徒、部分復帰できた生徒がいますが、新たに通級を始めた生徒もいます。子どもたちの個人的な課題解決に向けての取り組みに、そして心理的回復・自信回復を願って、継続的な支援をこれからもしていきます。

電話相談



◎非行・不登校・発達・進路・対人関係など青少年に関する相談。
 ◎相談時間：午前10時～午後7時 月～金曜日（祝祭日を除く）
 ◎愛称：やまびこ電話 951-7330

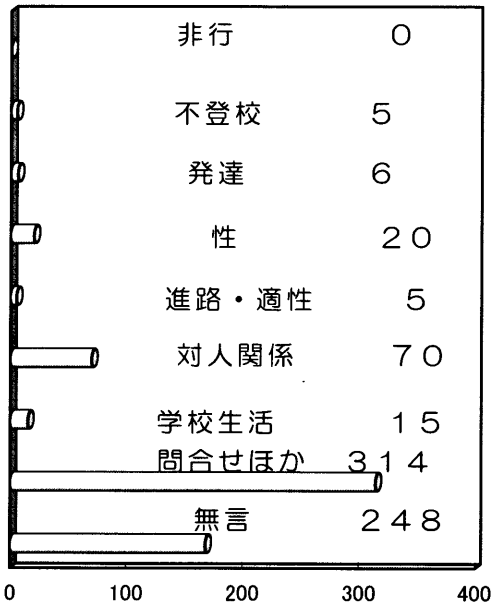
平成26年10・11・12月の状況

10月には241件、11月には222件、12月には220件の相談が寄せられました。

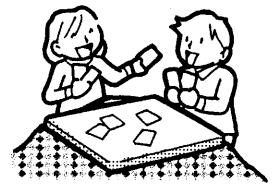
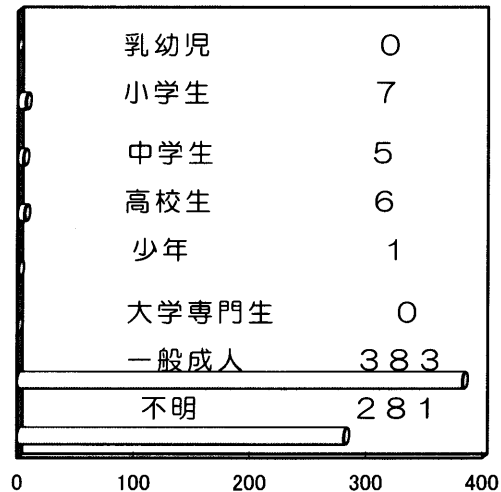
（前年10月：143件、前年11月：110件、前年12月：186件）

1. 10・11・12月の相談状況

相談内容別件数



相談対象者別件数



2. 今年度の電話相談受信件数状況(平成26年度)

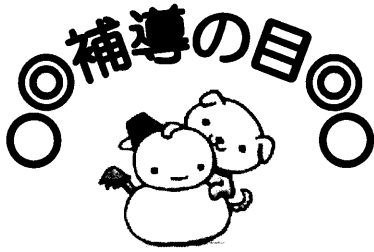
総件数 1,647件（前年同期 1,741件）

(1) 相談内容別

内容	非行	不登校	発達	性	進路・適性	対人関係	学校生活	問合せほか	無言
件数	0	9	14	42	12	230	30	723	587

(2) 相談対象者別

内容	乳幼児	小学生	中学生	高校生	少年	大学専門生	一般成人	不明
件数	0	17	14	15	2	1	938	660



非行の防止は地域ぐるみで

愛鷹地区少年補導委員 内野 美代子

今、子ども達を取り巻く環境は必ずしも良好とは言えません。多様化する社会生活、携帯電話やゲーム機の普及など情報技術の進展により大きく環境が変化しています。社会の一員たる子ども達にも大人社会の縮図が反映され、様々な問題が生じています。

非行、いじめ、犯罪被害等が日々深刻化するなかで、安心、安全が確保されるような環境づくりを学校、家庭、地域社会が一体となり取り組んでいます。

そのなかで補導部は、青少年の地域内での行動を、健全なものに導く活動を担っています。

「地域の子どもは地域で守ろう」を合言葉に10名のスタッフが地域内を巡回し、声かけ運動などの活動を展開しています。



1 少年補導委員の延べ参加人数（10月～12月）

区別	市職員	教員	地区補導委員	女性補導委員	母親補導委員	警察関係	総数	
人数	10月	10	12	407	9	8	0	446
	11月	7	11	317	11	4	0	350
	12月	5	4	109	4	2	0	124

2 補導回数・補導状況（10月～12月）

	補導回数				声かけ 注意・指導	事後指導	
	午前	午後	夜間	計		学校・親等へ連絡	他機関へ連絡
10月	3	12	39	54	74	0	0
11月	5	7	36	48	48	0	0
12月	1	5	10	16	55	0	0

3 平成26年度 4月からの補導活動累計

補導回数	延べ 参加補導委員数	声かけ 注意・指導	事後指導	
			学校・親等へ連絡	他機関へ連絡
374	3034	687	0	0

10月・11月・12月の街頭補導少年の学職別状況（中央補導・地区別補導）

12月の県内一斉冬季少年補導へのご協力ありがとうございました。今年度の後半は、繁華街やゲームコーナーでの青少年の姿が比較的少ない状態が続いています。これも日常の補導活動の成果であると思いません。寒い日が続きますが、年度末へ向けて引き続きよろしくお願いいたします。

区分	学職別		小学生	中学生	高校生	その他学生	有職少年	無職少年	計	四月からの 累計
	性別									
飲	酒	男							0	
		女							0	
喫	煙	男			1				1	3
		女							0	4
夜間はいかい		男				10			10	19
		女							0	29
不良交友		男							0	
		女							0	
怠学・怠業		男							0	
		女							0	
ゲームセンター入場		男	4	3	42				49	187
		女			4				4	73
パチンコ店入場		男							0	
		女							0	
カラオケ店入場		男							0	0
		女							0	0
自転車の暴走行為		男			2				2	6
		女			2				2	4
自転車の二人乗り		男			4				4	10
		女			4				4	7
自転車の無灯火		男			6				6	24
		女			2				2	6
危険な遊び		男							0	0
		女							0	0
その他		男	4	4	38		4		50	192
		女	13	2	28				43	123
計		男	8	7	93	10	4	0	122	441
		女	13	2	40	0	0	0	55	246
男女合計			21	9	133	10	4	0	177	687

事後	家庭・学校・職場へ連絡	男							0	
		女							0	
指導	他機関へ連絡	男							0	
		女							0	
合計			0	0	0	0	0	0	0	0

人間味を失っていませんか？

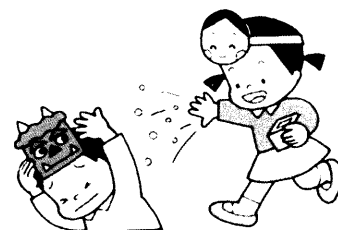
＝「こころ」通いあうコミュニケーションを求めて＝

現代社会は、「便利さ」と「効率性」を追い求め、肌を触れ合う付き合いや顔を見て会話する機会を減少させ、同時に「コミュニケーション能力」を減退させました。インターネットや携帯（スマートフォン）によるメールの普及は、相手を思いやる「こころ」を薄れさせました。ラインに至っては、まったく相手の都合はお構いなしです。電話ですら、相手の表情や状況が分からず、自分本位の解釈になりがちであったのに、さらに、拍車がかかってしまいました。

電話は相手のことを考え、時間や場所、立場を考慮しなければなりません。ところが、メールやラインは、それらの事情もそれほど問題としません。「忙しかったら、悪いから」とか「寝ていたら、起こすことになってしまうから」等の理由はつけられますが、そんなことより、自分が「送れる時に、連絡しておこう」という自分の都合を優先させています。問題なのは、そのことにすら、気づかなくなっていることです。確かに、「気づいた時に、読める時に読んでくれればいい」は、相手を気遣っているようです。でも裏を返せば、「どのように判断するかは、あなた次第です」という自分本位の考えに過ぎません。

確かに、会って直接会話を交わすことは、場所（所在地）を考えると、時間も費用もかかります。簡単には会えません。都合をつけあい、多少の無理をして、会う機会を作り出さなくてはなりません。でも、だからこそ、通じ合えるのだらうと思います。

顔を合わせることは、それだけで、コミュニケーションです。「感情のない文字」より、せめて「抑揚の感じられる電話」。それより、何より、顔を見て「こころ」を感じるのが1番だと思います。



センターの活動予定 (2月・3月の主な活動予定)

日 程	活動（行事）予定	日 程	活動（行事）予定
2月13日（金）	第4回地域相談員研修会	2月12日（木）	【体験活動はばたき】 創作活動
27日（金）	第5回補導委員会代表者会	3月12日（木）	鎌倉自主見学 ※天候等諸事情により、変更することがあります。

明るい子どもが育つまち

青少年健全育成シンボルマーク



青少年健全育成都市宣言（昭和55年）

あいさつで ひろがる愛の輪 地域の輪

青少年を、優しく温かい心で包み込むという思いから、右側は笑顔、左側は手のひら、全体はハート（心）を表しています。